

幼稚園の副次的任務

— 家庭教育に對する貢獻 —

幼稚園の任務が其の園兒保育にあることは言を俟たない。幼稚園は之れが爲に其の力を盡し、専心餘念なかるべき筈である。

しかも、茲に、此の主要任務に必然に隨伴して然るべき、また、此の主要任務の爲に最も有利なる副次的任務がある。一般家庭教育の改善發達のたために其の力の一面を用ゆることである。

家庭教育の學術的組織的研究の怠られて居ること、蓋し太だ久しいものである。今日學校教育の研究の斯くの如く活潑に進歩せる世にあつて、家庭教育の研究の缺けて居ることは、更めて考ふれば、寧ろ奇怪とすべき程のことである。勿論家庭教育は或る意味に於ては一種の自然的教育であつて、其の教育者たる親と、被教育者たる子との關

係は、必ずしも教育學的知識がさきになつて而して後行はるゝものではない。しかし、家庭教育が當然要すべき教育學的知識は少くないのである。

殊に現代の家庭教育が現代の文化を十分に利用して其の効果を高めんとするに當つては、誠に多くの原則的及び應用的教育知識を必要とするのである。而して、此の家庭教育に必須なる教育知識の研究に最も多くの便宜を有するものは、すなはち幼稚園である。蓋し小學校以上の學校教育にあつては、其の直接必要なる教育研究は、おのづから學校教育の特殊なる範圍に限られて、家庭教育の爲に資する處、甚だ遠きか、少くも間接的たらざるを得ない。勿論、學校教育に於ける訓練上の注意も、教授上の或る法則の如きも、家庭教育により

て多大の參考となるものであるけれども、幼稚園教育のその如く、全部が、直接的に、殆んどそのままに家庭教育の資となる如くではない。

殊に幼稚園教育そのもの、方よりいふ時は、家庭教育を、さきにせずして、其の教育の完きを期することは、到底不可能と言つてよいのである。蓋し、學校教育も幼稚園教育も、之れを最も概念的に起原的に考へれば、家庭教育の補充的機關なるに於て差なく、すべての教育の基礎的様式は家庭教育に發すと言つてもよいのであるが、事實上今日の學校教育は、家庭教育とは多少特殊の範圍に、多少獨立の性質を帯びる程に、それ自身の要求と發達とを遂げて居るのである。之れに反して、幼稚園は、其の本來の性質上一つに其の範を家庭教育にとり、其の特殊化を避くべき當然の位置にある。勿論、幼稚園教育は幼稚園教育としての特別なる（家庭教育の研究以外）研究を要することも尠くない。しかも、其の全體に於て、殊に其の基礎

的主調に於て、家庭教育の精神及方法の上に、其の研究を出發せしむべき等のものなのである。即ち、學校教育學を知らずとも幼稚園教育は出来るかも知れない。しかし、家庭教育學を知らずして幼稚園教育は出来ないと言ひ得るのである。

尙ほ又、家庭教育と協力提携の必要に於ても、學校教育にとりて其の必要あるよりも以上に、一層細密なる、一層離るべからざる必要が幼稚園教育に於て要求せらるゝのである。換言すれば、學校教育は、家庭教育に無關係に、尙ほ多少の何物かを兒童に與へ得ることもある。しかし、幼稚園教育は、家庭教育の協力なくして、殆ど何の教育をも期し得ないのである。故に、家庭教育の改善發達を所希する點に於て、一般的にも、個々の兒童の教育の爲にも、幼稚園の熱心と要求とは、實に切實を極むるのである。思ふに今日の幼稚園が其の當然の効果を舉げ得ないのは、其の責め幼稚園の方にもあるは勿論であるが、家庭教育が其の當然

の協力を缺いて居る爲であることも尠くない。

此の意味に於て、家庭教育の改善發達は幼稚園自身にとつても最大の急務といふべきものである。

斯く考へて來れば、家庭教育の改善進歩の爲に其の力の一面を分つて、其の副次的任務とすることは、其の研究の便宜よりするも、理論上の必要よりするも、實際上の必要よりするも、幼稚園にとつて自然にして且有利なることである。

さて、此の副次的任務の實現の爲に執るべき手段は一つにして止まらない。

一、先づ我國中流家庭（或は其の幼稚園に通園する幼兒等の平均家庭）が、其の年齢の幼兒の爲に與ふべき家庭生活の標準を研究して、之れを幼兒保育の大體の出發點とすると共に、甚しく過不及ある家庭の爲に適當なる方法を以て忠告し、又社會的に示教することも極めて必要であらう。斯くいへば幼稚園が非常に大きいことをする様に思ふ人もあるかも知れないが、此の位の教育的見識は

當然有して然るべきものと信するのである。

二、幼兒の衣服、辨當等のことについて、餘り幼稚園から家庭に注文する如きことは或る弊を伴ひ易いことかも知れない。しかし、是等の問題について、家庭の相談に應じて十分教育的指導をなし得るだけの用意研究は出來て居なければならぬ。尙一步進んでは適當の時期に於て、各種の模範品を供覽して、其の方面の注意を促し、相談を誘ふことも必要である。

三、殊に玩具の撰擇等に就ては、大に家庭に貢獻する處あつて然るべきである。幼稚園は積木一方とさまつて居た昔日なら兎に角、今日の豊富な保育材料は、家庭教育に適用すべきものが少なくないのみならず、大に共通の研究題目を有する次第である。

四、かくて、幼稚園が家庭教育の研究の結果を適切懇切なる方法を以て普及すべき手段をとることも必要である。之が爲には随時に講演會や展覽

會を催すこともよいのであらうが、能ふべくんば常時的に、徐々として而かも不斷に、此方面に力を盡すことが大切である。而して、幼稚園の應接

室は、善く選擇せられ善く配列せられた表類や模範品類準備をして、常に此の目的の爲に世の親達を迎ふべきである。

幼兒教育と暗示

文學士 上野 陽 一

催眠術を施された人に向つて、「今大雪が降つて居て、貴方は凍えかゝつて居ます」といへば、如何にも寒さうな風をしてブル／＼と慄へ出します。

又「貴君の手は上下に動いて居ます」といへば、その通りに動きはじめます。かくの如く施術者が催眠者に向ひ、或影響を及ぼすために與へる所の通告を暗示と名づけます。

併しこの暗示は必ずしも催眠だけに限つたものではありません。覺醒時に於てもやはりこれに類した暗示の現象が見られます。これを前の催眠暗示に對して覺醒暗示と申しますが、今この覺醒

暗示を幼兒の教育特にその訓練や智育の上に応用することについて御話しませう。

一

暗示の現象を教育上に應用することは、決して耳新しいことでもなく、又珍らしい事柄でもありません。教育者又は父兄と子供とが相接觸する以上、そこに何等かの暗示關係が行はれて、或影響を與へるといふことは、有り得べきことであります。

併したゞ無意識の中に、知らず／＼さういふ關係が行はれるといふだけでは、未だ以て思慮ある教育と稱することは出来ません。將來は教育者が